

各教科等における 「令和5年度の重点」

「自ら考え、判断し、表現できる子供」を目指して

学習指導要領では、子供たちに知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むため、育成を目指す資質・能力の三つの柱として「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養が示されています。

これらの資質・能力を育成するため、子供たちが学びの過程の中で、他者との協働を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら課題を見いだして解決策を考えたりするなど、各教科の学習を「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善することにより、学校教育における質の高い学びを実現します。また、徳島県GIGAスクール構想の推進を図り、各教科等の特質・内容に合わせて1人1台端末を活用し、「個別最適学ばい」「教科等の学びの深化」「教科等横断的な学び」を実現します。

徳島県教育委員会では、こうしたことを踏まえ、「確かな学力」において目指す子供像を「自ら考え、判断し、表現できる子供」とし、「豊かな心」「健やかな体」の育成との調和を図りながら、目指す子供の姿の実現を図ります。

育成を目指す資質・能力の三つの柱

- 生きて働く知識・技能
- 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等
- 学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等

すべての教科等にわたる国語力を生かした授業改善のポイント (国語力向上タスクフォースの提案から)

本県の児童生徒に身に付けさせたい力

- ・ 文章の中心的な部分と付加的な部分、問題提起の部分と具体例、まとめの部分などを読み分けて要旨を捉えたり、問いの意図やその解決に至る経緯を正しく理解したりする力
- ・ 目的に応じて必要な情報を集めるための見通しをもって臨み、根拠として取り上げている内容が適切であるかどうかを吟味したり、また、その根拠が適切であるか理由が明確になるように自分の考えをまとめたり、表現上の工夫をしたりする力
- ・ 相手の意図を捉えたりしながら自分の考えを明確にもち、その考えを深めるために、場に応じた適切な言葉遣いで話したり、書いたりしながら、互いに伝え合う力

正確に読み取らせるには！！

- 問題提起の部分や重要な部分などをアンダーラインや丸で囲ませよう。



主体的・対話的で深い学びの視点からは！！

- 自分の思いや考えを「書く」場面を増やそう！
- 自分の思いや考えを深めるために他者の意見を取り入れる場面を増やそう！
- 学んだことを振り返る場面を工夫しよう！

深い学びにつながる三つの発問は！！

- 別の言葉に言い換えてみよう。
- 比べてみよう。関連付けてみよう。
- そう考えた根拠と理由は何だろう。



目指す子供の姿

- 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、適切に使うことができる。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関する活動において、目的や意図に応じて、必要な情報を選び、他者と伝え合うことを通して、自分の思いや考えを明確にしたり、深めたりして、表現することができる。
- 課題解決に向けて活動に粘り強く取り組むなかで、言葉を通じて人と関わり、言葉がもつよさを認識しようとしたり、言葉をよりよく使おうとしたりしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①育成を目指す資質・能力を明確にし、実施状況を評価して改善を図りながら、子供一人一人に最適な学びを重ねていく場の設定
 - ◇振り返りやアンケート、学力調査等を活用し、子供一人一人のつまずきを捉えて指導する。
 - ◇教科等横断的な学習の充実を図るとともに、他教科等の取組の成果を国語科の取組に生かす。
- ②「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を関連させ、言語活動を通して資質・能力を育成する単元の構想と展開
 - ◇語彙の量と質の充実を図るために、読書活動の推進や実生活に関連した言語活動を取り入れるなどして、語句を蓄積することや蓄積した語句を意図的に使わせることに、継続的に取り組む。
 - ◇目標と言語活動の設定の工夫、学習の手引きや多様なモデルの提示等、指導・支援を通し他者と協働しながら、子供が主体的に学習を進める過程を設定する。
 - ◇子供の実態に即して、学習過程を弾力的にし、繰り返したり取り立てたりして指導する。
 - ◇言葉による見方・考え方を働かせるために、子供が比較・分類・関連付け等様々な思考に取り組むよう発問や指示を工夫する。
- ③身に付けた資質・能力や学習内容をICT活用等により自覚化を図る指導の充実
 - ◇多様な学習の記録(ノート、成果物、映像等電子データ)が生まれるように工夫する。
 - ◇「書くこと」を通して振り返りをさせるとともに、ICTの利用等により共有して学びを深めさせる。

目指す子供の姿

- 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解しているとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめることができる。
- 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを適切に表現したりすることができる。
- 社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとするすることができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①「単元を貫く問い」を設定し、知識を活用したり、技能を習熟させたりするための活動を充実
 - ◇単元を通して身に付けさせたい知識を明確にして、身に付けた知識を活用する場面を設定する。
 - ◇地図や統計等、各種の資料をICTを活用して、収集し、読み取り、まとめる学習場面を設定する。
- ②児童が自分の考えを広げ深める対話的な学習活動の充実
 - ◇自分の考えをもつ場面を設定し、思考を可視化する手立てを工夫する。
 - ◇目的を明確にして、資料から読み取った情報等を基に根拠を示して話し合う場面を設定する。
- ③児童が主体的に問題解決しようとする学習活動の充実
 - ◇児童と社会との関わりを意識させる課題を設定する。
 - ◇課題に対するまとめや学びの振り返りの場面を設定する。

目指す子供の姿

- 数量や図形に関する基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けている。
- 筋道立てて考え、具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて事象や問題解決の過程を簡潔・明瞭・的確に表現したり、統合的・発展的に考察したりしている。
- 算数の楽しさやよさを実感し、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①学習評価を充実させ、学びの質を高める

◇本時だけでなく、単元を通してどのような資質・能力を育成するのかを把握する。『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料小学校算数』をもとに、評価規準の設定や単元計画の作成を行い、指導と評価の一体化の充実を図ることで児童の学びの質を高める。

②児童が数学的な見方・考え方を働かせる数学的活動を展開する

◇単元におけるつまづきを把握し、教師が説明するのではなく、あえて全体に問い掛ける。完成した図や式を共有するのではなく、なぜそのように考えたのかを問い、数学的な見方・考え方を顕在化させ、意味や根拠を明確にしながらか問題解決の過程を共有できるようにする。

◇黒板には、本時の目標を達成させるための児童のつぶやきやキーワードを残し、問題解決の過程が一望できるようにする。本時の学習及びこれまでの学習や生活を振り返る場を設け、既習事項と関連を図ったり新たな問題を見いだしたりするなど、統合的・発展的に考察できるようにする。

③ICTを効果的に活用する

◇ICTは、図形を動的に変化させ図形感覚を豊かにする、表やグラフを簡単に作成し統計的探究プロセスを進める、プログラミングを体験しながら論理的思考力を育成する等、算数科の特質に応じた効果的な活用を図る。

目指す子供の姿

- 自然の事物・現象についての性質や規則性などを理解するとともに、観察、実験において器具や機器などを目的に応じて工夫して扱い、過程や得られた結果を適切に記録することができる。
- 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、それらを表現するなどして問題解決することができる。
- 自然の事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとすることができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①自然事象についての知識を深めたり、観察・実験の技能を身に付けたりする学習活動の充実

◇自然現象についての知識を深め、理解したことを適切な用語で説明する学習場面を多く設定する。

◇観察・実験の目的を捉えさせ、その過程や器具等の適切な操作、結果の記録の意義を理解させる。

②身近な事物・現象の中に問題を見だし、「問題解決の過程」をたどらせる学習活動の充実

◇身近な事物・現象の中に問題を見だし、各自が根拠のある予想や仮説を立て、考察を行う場面を設定する。

◇各自の考えを図やモデルを用いて科学的な筋道を立てて説明し、ICT等を活用して互いの考えを共有する場面を設定する。

③自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に思考、表現する学習活動の充実

◇各自が自分の考えをもち、ICT等を用いて互いに意見を交わす学習場面を設定する。

◇自然の事物・現象に進んで関わり、生物を愛護する態度、生命を尊重する態度を養う学習活動を充実させる。

目指す子供の姿

- 自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けている。
- 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができる。
- 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①具体的な活動や体験の充実

- ◇児童の生活圏にある人、社会、自然を学習の対象や場とし、それらと直接関わる活動を重視する。
- ◇試行錯誤したり、納得のいくまで追究したりできる体験活動の充実を図る。

②気付きの質を高める学習活動の充実

- ◇体験の中で気付いたことを言葉、絵、動作、劇化など多様な方法で表現する場を設定する。記録し、表現する方法として、児童の発達段階に応じてICTを利用することも考えられる。
- ◇体験活動と表現活動とが豊かに行き来する相互作用を重視する。
- ◇伝え合い交流する場を工夫する。
- ◇気付いたことを基に考えることができるようにするため、「見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫する」などの多様な学習活動を行う。

③学びの連続性の保障

- ◇各教科等との合科的・関連的な指導の充実を図る。
- ◇「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、幼児期における学びとの円滑な接続を図る。

目指す子供の姿

- 音楽活動を通して、曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いたり理解できたりするとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な技能を身に付けて、演奏したり音楽をつくったりできる。
- 音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもったり、曲や演奏の楽しさやよさを見いだしながら、音楽を味わって聴いたりできる。
- 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に、表現及び鑑賞の学習活動に取り組むことができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①音楽活動の中で、実感を伴いながら知識を習得したり更新したりする学習活動の充実

- ◇児童が音楽から感じ取ったイメージや感情と、音楽を形づくっている要素の表れ方などとの関係を捉え、知識として習得したことを、表現や鑑賞の活動に生かすことができるような学習活動を設定する。

②技能と「思考力、判断力、表現力等」の育成とを関わらせた学習活動の充実

- ◇低学年では音楽表現を楽しむために、中・高学年では表したい音楽表現をするために必要な技能の習得を目指す。
- ◇音楽表現を考える過程で、思いや意図を実現するための技能を習得することの必要性を実感できるような学習活動を設定する。

③児童の思いや意図を音楽表現に生かしたり、音楽のよさや面白さを見いだし、曲全体を聴き深めたりすることができるような学習活動の充実

- ◇音楽を形づくっている要素を音楽の特徴を捉える窓口として、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える学習場面を設定する。
- ◇演奏して試す、何度も聴く、話し合いなどによって、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、それによって気付いたり、表現や鑑賞の活動を深めたりしていただけるような指導を工夫する。

④ICTの効果的な活用による表現及び鑑賞の活動の充実

- ◇児童が様々な感覚を働かせて音楽への理解を深めたり、主体的に学習に取り組んだりすることができるように、指導のねらいの明確化や活用場面の精選を図ることにより、効果的にICTを活用する。

目指す子供の姿

- 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができる。
- 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができる。
- つくりだす喜びを味わい、主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとすることができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解したり、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりする学習活動の充実
 - ◇自分の感覚や行為を通して形や色などの造形的な視点を理解する学習活動を設定する。
 - ◇材料や用具について基本的な扱い方を踏まえた上で、扱うこと自体を楽しめる活動を設定する。
- ②創造的に発想や構想をする学習活動の充実
 - ◇形や色などの造形的な視点を基に、児童の思いを大切に学習活動を重視する。
 - ◇「A表現」及び「B鑑賞」の相互の関連を図る学習場面を設定する。
 - ◇「つくり、つくりかえ、つくる」活動を重視する。
- ③作品などに対する自分の見方や感じ方を深める学習活動の充実
 - ◇自分や友達の作品、親しみのある美術作品、生活の中の造形等を鑑賞する場面を設定する。
 - ◇見方や感じ方について話す学習を設定し、互いのよさや個性などを尊重し合う活動を充実させる。
- ④ICTの効果的な活用による表現及び鑑賞の活動の充実
 - ◇表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育むことを目指す授業改善の手段として、ICTを効果的に活用する。

目指す子供の姿

- 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けている。
- 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
- 家族の一員として、生活をよりよくしようと、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造しようとする、実践的な態度を身に付けている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①実践的・体験的な活動の充実
 - ◇実習や観察、調査、実験などの実践的・体験的な活動を通して、習得した知識及び技能を、生活の場で生かせるよう、児童の実態を踏まえた具体的な学習活動を設定する。
- ②問題解決的な学習の充実
 - ◇児童が、生活を見つめ、問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考える学習を通して、課題を解決できた達成感や、実践する喜びを味わうことができる学習過程を計画する。
 - ◇課題解決の見通しをもち、他者と協働しながら解決方法を考え、根拠や理由を明確にして分かりやすく説明したり発表したりする学習場面を設定する。
- ③ICTの効果的な活用
 - ◇児童の思考の過程や結果を可視化したり、大勢の考えを瞬時に共有化したり、情報を収集し編集することを繰り返し行い試行錯誤したりするなどの学習場面において、ICTを効果的に活用する。

目指す子供の姿

- 各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けることができる。
- 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それを他者に伝えることができる。
- 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活をする事ができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①**運動の楽しさや健康の意義等に気付き、主体的に学習することができる学習活動の充実**
 - ◇学ぶべき学習内容を明確にし、運動の特性を大切に教材を提示する。
 - ◇有能感や学習意欲が育成できる教材の工夫と子供の思いに寄り添った課題設定を行う。
 - ◇学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面を設定する。
- ②**運動や健康についての課題の解決に向けて、対話的に学ぶことができる学習活動の充実**
 - ◇課題解決に向けた言語活動が充実するよう毎時間の課題を整理し、明確にして提示する。
 - ◇筋道を立てて練習や作戦について話し合いや身近な健康の保持増進について話し合いなど、グループや学級で言語活動を積極的にを行い、自分の考えなどを広げたり深めたりできる場面を設定する。
 - ◇体を動かす機会を適切に確保した上で、課題を比較、分類、整理したり、解決に向けた課題を焦点化したりするためにICTを活用する。
- ③**運動や健康についての課題をよりよく解決するなど、深く学ぶことができる学習活動の充実**
 - ◇運動や健康についての自己の課題を見付けることができるよう、子供の発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど学びに必要な指導を計画的に行う。
 - ◇よりよい課題解決に向けて子供が考える場面と教師が教える場面をバランスよく設定する。

目指す子供の姿

- 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うとともに、音声で十分慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。
- 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①**自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実**
 - ◇コミュニケーションの目的・場面・状況を明確に設定し、児童が意欲的に活動できるよう工夫する。
 - ◇指導者同士→指導者と児童→児童同士のように段階的にSmall Talkを取り入れ、既習表現を繰り返して使用する機会を多く設定することで、既習表現や対話を続けるための表現の定着を図る。
 - ◇語句や表現を読んだり書いたりする活動は、音声で十分慣れ親しんだ後に設定する。
 - ◇ICTを活用することで、児童の興味・関心を高め、言語活動の更なる充実を図る。
- ②**学習改善・指導改善につながる評価の工夫**
 - ◇単元全体を見通した評価計画を立て、授業中に見取りや振り返りカード、パフォーマンステスト等で児童の学習状況を把握し、個々の児童の学習の調整に向けた取組につなげる。
 - ◇発表内容等をタブレット端末で録画(録音)するなどして児童と教師が共有し、児童の学習改善及び教師の指導改善に活用する。

目指す子供の姿

- 道徳的価値が大切であることを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断している。
- 人間としてよりよい生き方を志向している。
- 道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①学習指導過程の工夫

- ◇道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自己の生き方について考えを深められるよう適切に構成する。
- ◇ねらいに即した指導の手立てとなるようにする。

②発問等の工夫

- ◇多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確に行う。
- ◇児童の発言を傾聴して受け止め、発問に対する児童の発言などの反応を、適切に指導に生かす。

③指導方法の工夫

- ◇導入等においてICTを活用し、主題に対する興味や関心を高める工夫をする。
- ◇自分自身との関わりで、物事を多面的・多角的に考えさせるために、教材や教具を活用する。
- ◇児童の実態や発達の段階に応じた指導方法の工夫をする。

目指す子供の姿

- 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。
- 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。
- 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実

- ◇コミュニケーションの目的・場面・状況を明確に設定し、児童が意欲的に活動できるよう工夫する。
- ◇児童の興味を引き、聞いたり話したりする必然性のある題材や場面設定となるよう工夫する。
- ◇既習表現を繰り返し使用する活動を多く設定し、聞くこと、話すことに十分慣れ親しませる。
- ◇ICTを活用することで、児童の興味・関心を高め、言語活動の更なる充実を図る。

②学習改善・指導改善につながる評価の工夫

- ◇単元全体を見通した評価計画を立て、授業中の見取りや振り返りカード等で児童の学習状況を把握し、個々の児童の学習の調整に向けた取組につなげる。

目指す子供の姿

- 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、様々な場面において探究的な学習を進めることができる。
- 実社会や実生活の中から課題を設定し、課題解決のために情報を集め、整理・分析し、まとめたり表現したりすることができる。
- 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、自他のよさを尊重しながら、積極的に社会に参画しようとするすることができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①学習過程を探究的にすること

- ◇「課題の設定」では、実社会や実生活に関わる体験をすることで、自ら課題意識をもち、その意識が連続発展することができるよう、教師が意図的な働きかけを行う。
- ◇「情報の収集」では、課題解決のための情報収集を自覚的に行うとともに、体験で獲得した情報をレポートなど適切な方法で蓄積することにも配慮する。
- ◇「整理・分析」では、目的に応じて、比較して考える、分類して考える、序列化して考える、類推して考える、関連付けて考える、原因や結果に着目して考える、などの「考えるための技法」を用いて思考を可視化できるようにする。
- ◇「まとめ・表現」では、相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり、表現したりすることで、情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を自覚し、探究の過程が繰り返されるようにする。

②他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること

- ◇体験活動を探究活動の過程に意図的に位置付けるとともに、ICTや思考ツールなどを効果的に活用しながら、互いに教え合い学び合う活動や地域の人との意見交換や交流活動など、他者と協働して課題を解決し、自分の考えを深めようとする学習活動を重視する。

目指す子供の姿

- 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。
- 自己の生活の充実・向上や自分らしい生き方の実現に必要なことについて理解している。
- よりよい生活を築くための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。
- 所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法について考え、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりして実践している。
- 生活や社会、人間関係をよりよく築くために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。
- 主体的に自己の生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①「合意形成を図る」「意思決定を行う」活動の充実

- ◇議題や題材を選定・設定し、根拠を明確にして自分の考えを話したり、意図を捉えながら聞いたりして、「折り合いを付けながら合意形成を図る」「集団思考を生かした個人の意思決定を行う」話し合い活動ができるように指導・支援を工夫する。

②「多様な考え」「自分の考え」をよりよい方向へつなげていく活動の充実

- ◇実践や体験を通して感じたり、気付いたりしたことを振り返り、言葉でまとめたり、発表し合ったりする活動を重視するとともに、次の活動に生かすことができるように支援する。
- ◇ICTを活用する場面を適切に選択し、教師の丁寧な指導の下で効果的に活用する。

③合意形成したり、意思決定したりしたことを実践する活動の充実

- ◇合意形成したことを基に、役割を分担し全員で協力したり、意思決定したことを基に、個人として努力したりして、目標の実現を目指すよう支援する。
- ◇児童が実践や体験を通し、集団の一員としての望ましい生き方についての認識をもつことができるよう、道徳科との関連を図った指導をする。